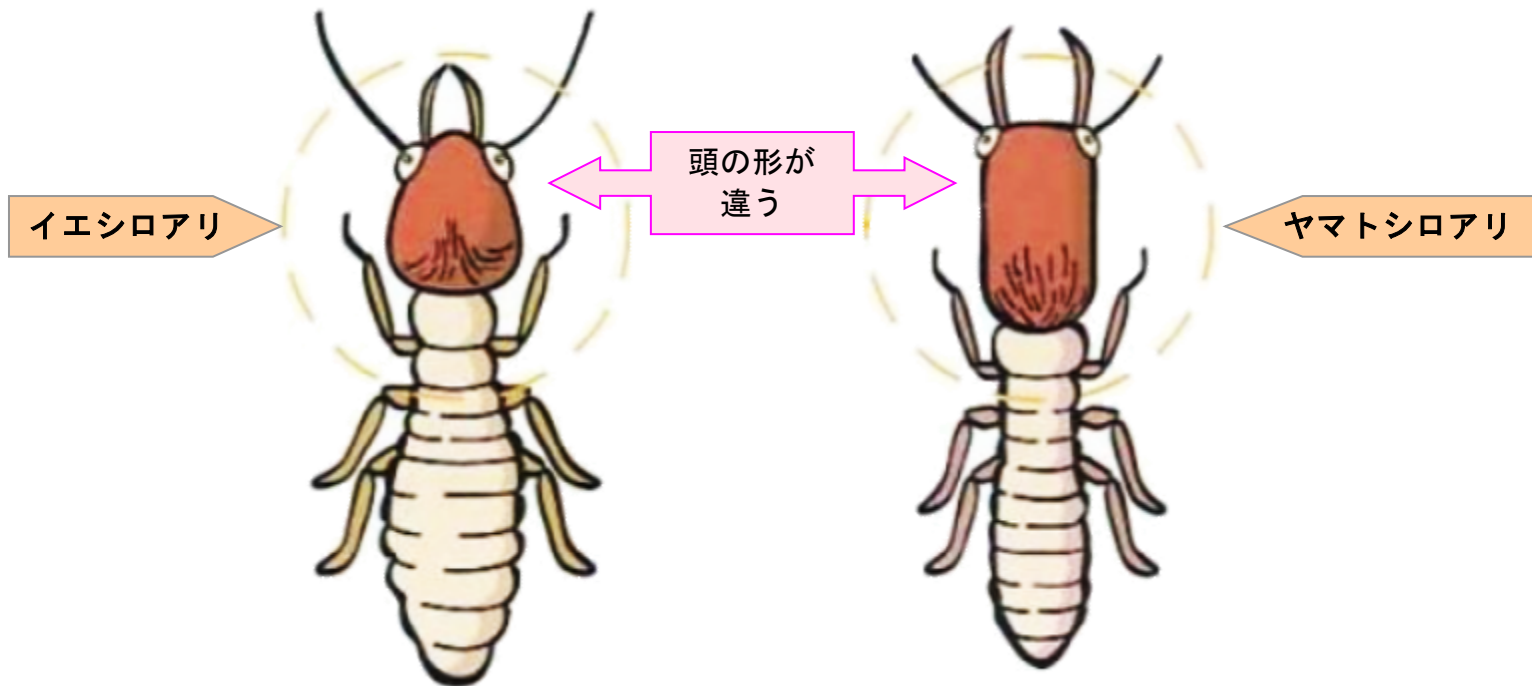



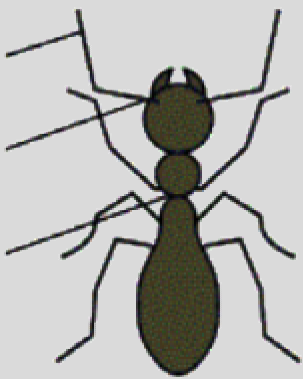
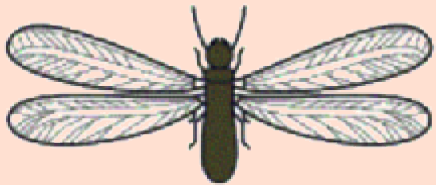
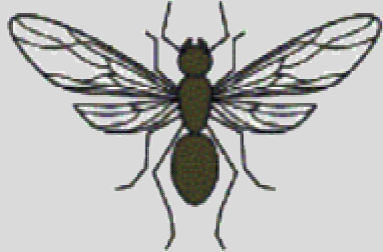
シロアリ目（概略）

図解 | 生活百科事典 <http://windofweef.jp/library/life/life00.html>
を参考に編集、改変 (Oda) 2018. 3. 10

イエシロアリと、ヤマトシロアリの簡単な見分け方



シロアリ（類）と、黒アリの違い

	シロアリ類	黒アリ
変 態	不完全変態（蛹にならない）	完全変態（蛹になる）
働 き ア リ	 <p>数珠状 複眼なし くびれナシ</p>	 <p>“く”の字 複 眼 くびれ</p>
羽 ア リ	 <p>・翅は薄く、4枚ともほぼ同じ大きさ ・根元に切離線があり、簡単に切り離せる ・ヤマトシロアリは黒色、イエシロアリは茶色 ・複眼がある</p>	 <p>・翅は厚く、前翅が大きく、後翅が小さい ・翅脈が太くて少ない</p>

日本のシロアリ被害で多いのはヤマトシロアリとイエシロアリの2種類。

主な特徴はヤマトシロアリは全国に分布。イエシロアリは中部地方以西の太陽側、四国、九州などに多く生息し（最近ではイエシロアリの分布が広がってきている）、女王アリを筆頭に兵隊アリ、働きアリに分かれコロニー（巣）を作り、羽アリの飛翔時期ですがヤマトシロアリは4～5月の昼間、イエシロアリは6～7月の夕方に分巢の為に一部が羽アリとなり飛び立ち、被害に気づくケースが多々ある。最近では日本国内でもアメリカカンザイシロアリが発見され被害の拡大が心配されている。





よく黒アリの羽ア리를白アリの羽アリと間違えるケースがありますの上図で確認できます。

黒アリの羽アリは前後の羽のサイズが違いますが、白アリの羽アリは前後の羽のサイズが同じなのでコレさえ覚えていれば簡単に見分けられる。

イエシロアリと、ヤマトシロアリの解説

	イエシロアリ	ヤマトシロアリ
分 布	九州・四国の沿岸部・西日本の太平洋側沿岸地	北海道北部を除く日本全国
生息場所	側溝、給排水管付近や切り株等	流し台や風呂場など水回り付近の床下
食 害	水を運ぶ能力があり木材を湿らせながら蟻道を作り食害して行く。食害は床下から屋根裏まで及ぶ	水を運ぶ能力がないので常に湿った木材に生息する。湿度の高い梅雨前後に被害が多い
コロニー	王室を中心にして多数の小部屋を持つ同心円状の巣を作る。巣は地中に作り大きな群れで定住し、女王は移動しない。群れの数 50万～100万匹	特に巣を作り群れることはなく食害を続ける。小集団ごとで移動し女王も移動する。群れの数 1万～3万匹程度
羽アリ	6, 7月頃の夕方から夜間にかけて数千～数万匹が群飛する。明かりに寄る習性があり多くは灯に集まる。体長は6.5～8.5mm。卵型で頭部は褐色で体は橙黄色、翅は淡黄色で透明	4～5月頃の昼前にコロニー内の数%が、いっせいに群飛する。昼間に活動するので特に明かりに集まることはない。体長は4.5～7.5mm。頭部は黒褐色で体は黄色、翅は暗褐色

写真で比較するイエシロアリと、ヤマトシロアリ

	イエシロアリ	ヤマトシロアリ
職蟻 (シヨクギ)		
兵蟻 (ヘイギ)		

土壌性 シロアリ	ヤマトシロアリ	北海道北部を除く、ほぼ全国に分布
	イエシロアリ	関東以西以南に分布
乾材 シロアリ	アメリカカンザイシロアリ	全国に点在
	ダイコクシロアリ	奄美大島以南の南西諸島と小笠原諸島に分布

注：土壌性、乾材の表現は、シロアリ駆除業者の表現を採用したが、食害の違いをこの表現で定義したと思われる。(Oda)